

自由度 m_1 の χ^2 乗分布に従う χ_1^2 と自由度 m_2 の χ^2 乗分布に従う χ_2^2 の比で構成される確率変数 G を

$$G = \frac{\chi_1^2/(m_1)}{\chi_2^2/(m_2)}$$

が F 分布に従うと定義する。

いま、 $k \in \{1, 2, \dots, m\}$ の m 個の母集団分布から、i.i.d.でそれぞれからサイズ n の標本 X を得ることを考える。母集団分布は正規分布で、 m 個の分布は同分散を仮定する。つまり、

$$X^k \sim N(\mu_k, \sigma^2)$$

3つの群それぞれは、標本分布は正規分布の再生性の定理から正規分布となり、

$$\bar{X}^k \sim N\left(\mu_k, \frac{\sigma^2}{n}\right)$$

となる。各群の標本平均を以下の線形変換を施すと、正規分布の線形変換の性質から、

$$\frac{\bar{X}^k - \mu_k}{\sqrt{\sigma^2/n}} \sim N(0, 1)$$

と標準正規分布に従う。また、3つの群の標準化した標本平均の平方和は、 χ^2 乗分布の定義から、

$$\sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{X}^k - \mu_k}{\sqrt{\sigma^2/n}}\right)^2 \sim \chi^2(m)$$

自由度 m の χ^2 乗分布に従う。

さて、帰無仮説、 $\mu_1 = \mu_2 = \dots = \mu_k$ のもとで、各母平均を μ_0 と仮定すると、

$$\sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{X}^k - \mu_0}{\sqrt{\sigma^2/n}}\right)^2 \sim \chi^2(m)$$

が自由度 m の χ^2 乗分布に従う。この μ_0 を不偏推定量である全体平均 \bar{X} で置き換えると、

$$\sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{X}^k - \bar{X}}{\sqrt{\sigma^2/n}}\right)^2 \sim \chi^2(m-1)$$

となり、自由度 $m-1$ の χ^2 乗分布に従う。

続いて、母分散 σ^2 を不偏分散 $U^2 = \frac{1}{m(n-1)} \sum_{k=1}^m \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X}^k)^2$ に置き換え、 $m-1$ で割った確率変数

$$F = \frac{1}{m-1} \sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{X}^k - \bar{X}}{\sqrt{U^2/n}}\right)^2$$

を、 F と呼ぶことにする。 F は、次の変換により、

$$\begin{aligned} \frac{1}{m-1} \sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{X}^k - \bar{X}}{\sqrt{U^2/n}}\right)^2 &= \frac{1}{m-1} \frac{n}{U^2} \sum_{k=1}^m (\bar{X}^k - \bar{X})^2 \\ &= \frac{1}{m-1} \frac{n}{U^2} \sum_{k=1}^m (\bar{X}^k - \bar{X})^2 \frac{\sigma^2 m(n-1)}{\sigma^2 m(n-1)} = \frac{1}{m-1} \frac{n}{\sigma^2} \sum_{k=1}^m (\bar{X}^k - \bar{X})^2 \frac{\sigma^2 m(n-1)}{U^2 m(n-1)} \\ &= \frac{n \sum_{k=1}^m (\bar{X}^k - \bar{X})^2}{\sigma^2 (m-1)} / \frac{m(n-1)U^2}{\sigma^2 m(n-1)} = \frac{n \sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{X}^k - \bar{X}}{\sqrt{\sigma^2/n}}\right)^2}{(m-1)} / \frac{\sum_{k=1}^m \sum_{i=1}^n \left(\frac{X_i - \bar{X}^k}{\sqrt{\sigma^2}}\right)^2}{m(n-1)} \end{aligned}$$

となる。分子は自由度 $M-1$ の χ^2 乗分布に従う χ_1^2 を $(m-1)$ で割ったもの、分母は自由度 $m(n-1)$ の χ^2

乗分布に従う χ_2^2 を $m(n-1)$ で割ったものであり、その比 F は定義より、 F 分布に従う。

証明終わり

F について、標本 X の実現値 x を用いて、 F の実現値である f 値を

$$f = \frac{1}{m-1} \sum_{k=1}^m \left(\frac{\bar{x}^k - \bar{x}}{\sqrt{u^2/n}} \right)^2 = \frac{n \sum_{k=1}^m (\bar{x}^k - \bar{x})^2}{(m-1)} / \frac{\sum_{k=1}^m \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x}^k)^2}{m(n-1)}$$

と計算できる。

よって、 f 値は、標本から計算でき、群間の平均平方と群内の平均平方の比で計算できる。